

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域を主体的に学び、ともども地域の文化づくりを推進する事業
事業主体 (連絡先)	七日市場の歴史を学ぶ会 会長 曾根原孝和 (0263 - 77 - 5598)
事業区分	主：地域協働の推進に関する事業 関連：教育文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,308,000円 (うち支援金： 1,046,000円)

事業内容

地域を主体的に学び、ともども地域づくり文化づくりを進め深めるために、会と公民館や区などの事業を協働、連携して積極的に進める。公民館とは継続して講座や史跡巡り、新たに写真講座を実施する。また、区長会の防災訓練の折に「防災器具の変遷」を参加者に、諏訪神社の御遷宮の折に「記念パンフレット」を全戸に配布し地域理解を深める。

さらに、会の20年間の調査や活動を冊子『七日市場の歩み』にまとめ、刊行発表会を行い、区民には全戸配布してともども地域の理解を深める。なお、冊子は中学生の地域学習に生かし、生徒が主体的に地域を学ぶ手助けにもしていく



(史跡巡り)

【目標・ねらい】

- ① 協働、連携の活動を推進する。
- ② 地域文化を主体的に学ぶ。
- ③ 共々地域文化の理解を深める。
- ④ 中学生の地域理解を深める。

事業効果

- 1 公民館と協働した講座、史跡巡りの実施や、連携した活動により、参加者が増加し交流も深まった。(参加10名)
- 2 史跡巡りや写真講座では、自分の関心ある史跡や風景にすすんで接し、見学や撮影などを深めていた。(参加34名)
- 3 『七日市場の歩み』の刊行発表会の講演や各戸配布の冊子を通して、地域文化の理解を深まった。(参加80名)
- 4 中学生に冊子の資料や写真を生かして講座ができた。ただ、冊子完成後はコロナで講座ができず残念。(参加45名、3回予定が1回に留まる)

※自己評価【 B 】

【理由】

協働、連携する事業を推進し、地域を主体的に学び、共々地域文化づくりを進め、理解や交流も深まった。『七日市場の歩み』の発刊も良く地域理解に役立ったが、コロナのため中学生の地域理解に冊子を十分生かせなかった。

今後の取り組み

- 協働の良さが共有できたので、公民館の講座や史跡巡りは内容や見学地を変えて実施する。また、参加者が説明を聞くだけでなく、お互いに発表や質問などの場を設ける。なお、他の団体とも無理のない範囲で協働、連携ができる内容などを工夫して進める。
- 『七日市場の歩み』は読み合わせの機会を設けて、お互いに地域理解や交流を深める。
- 5年度、6年度に地域理解を深め、6年度秋頃に「風景写真展」「かるた展」(仮称)などを開いて、地域の文化づくりの深まりと評価の場とする。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある